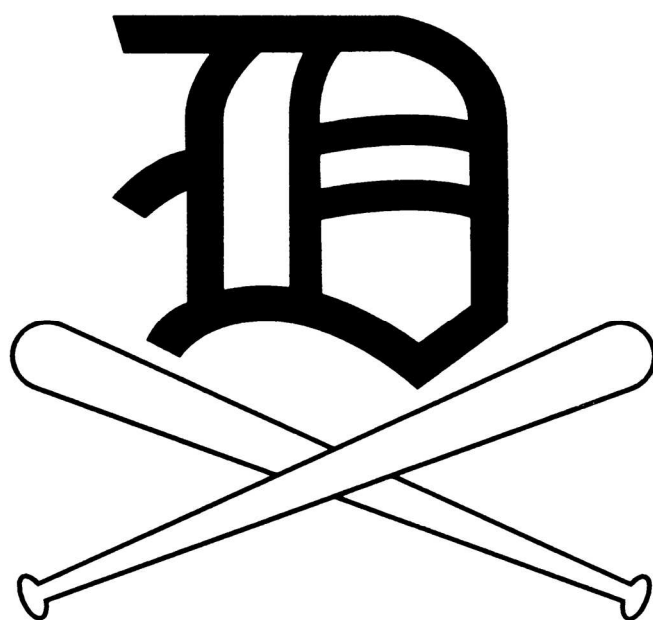


新球友

同志社大学体育会軟式野球部会報

第四一号 令和3年11月



同志社大学体育会軟式野球部

部長 奥田 以在 第四一号責任者 久保田 開 片桐 光之典

Doshisha College Song

Words by W.M. Vories

Music by Carl Wilhelm

One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify ; one lofty aim;
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide!

Doshisha Heroes

(again) Doshisha heroes ever must win,
Fight to the finish, never give in, La La La
All play your best, boys,
We'll do the rest, boys.
Fight for the Victory.
La, La, La, (again)
Doshisha wins today.

Doshisha Cheer

One, two, three,
Who are we?
La, la, la, Doshisha!

One, two, three,
Who are we?
La, la, la, Doshisha!

One, two, three,
Who are we?
La, la, la, Doshisha! (applause)

目次

令和三年度役員・・・・・・・・・・	2
部長として 奥田 以在・・・・・・・・	4
球友会会長として 田村 好司・・・・・・・・	5
監督として 手塚 整廣・・・・・・・・	6
主将として 星野 隼人・・・・・・・・	7
新球友によせて 井上 敬渡・・・・・・・・	8
全日本大学軟式野球連盟概要・・・・・・・・	9
随想・・・・・・・・・・	10
四回生終身成績・・・・・・・・・・	22
2020年度秋季リーグ・・・・・・・・・・	24
2020年度新人戦・・・・・・・・・・	28
西日本代替大会・・・・・・・・・・	29
メモリアルスナップ・・・・・・・・・・	30

軟式野球部規約・公式大会登録に関する規定・・	34
------------------------	----

球友会 各位・・・・・・・・・・	40
------------------	----

球友会会計報告・特別寄付・・・・・・・・	41
----------------------	----

球友会会則・・・・・・・・・・	43
-----------------	----

編集後記・・・・・・・・・・	47
----------------	----

球友会会員及び現役名簿・・・・・・・・	49
---------------------	----

「新球友」第四一年号発刊にあたって

新球友もおかげさまで第四一号をむかえることができ、発刊に際しましては球友会の皆様はもとより、他大学の方からもご寄稿を賜りましてありがとうございます。

我が軟式野球部の今年度の成績と致しましては、春・秋ともにリーグ準優勝という結果に終わりました。コロナウィルスの影響により、満足に練習できない日が続きましたが、後輩たちには昨年と今年の無念を晴らして欲しいものであります。

今後とも先輩諸兄にはご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

2020年度軟式野球部・球友会役職一覧

軟式野球部			
	スタッフ		
	部長	奥田 以在	
	監督	手塚 整廣	S56
	コーチ	(岩佐 拓己)	(H14)
		(藤森 稔人)	(H18)

球友会(OBOG会)			
役員			
役員会	会長	田村 好司	S53
	副会長	小林 宏行	S56
		大倉 広継	S56
監査役		木下 幸典	S51
		柴田 嘉宏	S61

現役員				
役員会	幹部会	主将	星野 隼人	3回生
		副主将	片桐 光之典	3回生
		〃	久保田 開	3回生
		主務	藤原 唯輝	3回生
		会計	柴田 峻弥	2回生
		連盟	北澤 秀太	3回生
		渉外	秦 直生	3回生
		ホームベース担当	城 公平	3回生
		道具担当	坂東 里矩	3回生

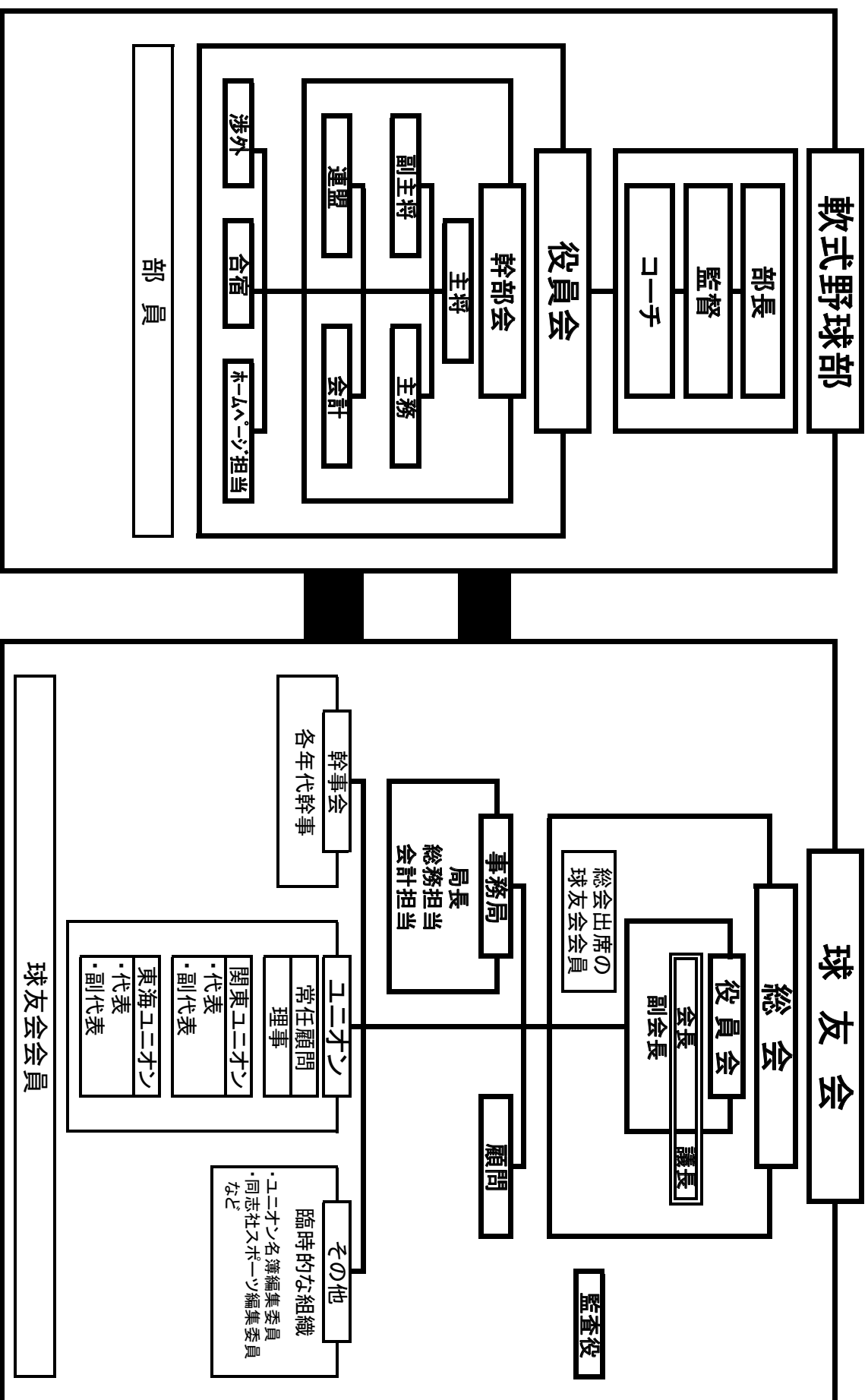
事務局		
事務局長	鈴木 勝也	H15
会計担当	岩佐 拓己	H14
総務担当	三本木 秀樹	H23
	林 智之	H25
	神所 祐希	H27
顧問	(手塚 整廣)	(S56)
	長谷川 利通	H9
	藤森 稔人	H18

スポーツユニオン		
常任顧問	塚本 幸雄	S46
理事	田村 好司	S53
理事	廣田 憲司	S43
理事	安田 一夫	S43
理事	井垣 篤司	S54
理事	平山 正則	S58
理事	長谷川 利通	H9
理事	岩佐 拓己	H14

関東ユニオン代表	坂下 雅弘	S59
〃 副代表	川上 晋	H12

東海ユニオン代表	平山 正則	S58
〃 副代表	岩田 拓朗	H18
〃 副代表	牧原 光章	H21

同志社大学体育会軟式野球部・球友会組織図



ご挨拶

部長 奥田 以^い在^{あり}

同志社大学体育会軟式野球部球友会の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素から多大なご支援とご声援を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年は、賛否両論あつたものの、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、スポーツの素晴らしさを改めて感じる年になりました。私は、時間を忘れて見入ってしまうことが度々ありました。締め切りを控えた仕事を色々と抱えていたので弱りましたが、スポーツの魅力には敵わず、徹夜続きの夏になりました。

ところで、新型コロナウイルス感染症の関係で、大学の課外活動にとつては依然として非常に苦しい時間が続いています。判断が難しいことが非常に多く、幹部は悩みに悩んだことと思います。昨年度を経験した先輩からの引き継ぎがあつたとしても、刻々と変わる状況に臨機応変に対応する苦労は大変なものはずです。

軟式野球部にとつて特に苦しかったことは、緊急事態宣言による公共施設の閉鎖です。大学にグラウンドを持つていない部のため、練習場所を見つけることができませんでした。この状況は大学にも報告し、改善を要望しています。ただ、体育会の中での経緯もあり、簡単に解決できる問題ではないようです。今後、学生のために、これまでの経緯を乗り越えた解決が望まれます。

困難な状況にあつても、部員のみんなは一生懸命に野球に取り組んで

います。春季リーグは残念ながら2位に終わりましたが、観戦した同立戦は緊張感のある素晴らしい試合でした。ただ、練習不足で臨まなければならなかった悔しさは、部員の背中に滲んでおりました。現在は、秋季リーグを戦っております。今年から秋季リーグの後にも秋の全国大会が開催されることになりました。リーグ序盤に悔しい敗戦はありましたが、立ち直り、勝ち星を重ねております。まだまだチャンスはあるので、引き続きいい試合をしてもらいたいと思います。

ところで、私は今年度を最後に、部長を退くことになります。当初から私の事情によつて年限が決まつており、ご了承頂いた上での着任でしたが、短い時間とわかつてはいましたが、いざその年限が近づくと、様々なことが思い出され、寂しく感じます。球友会の皆様には、体育会の部長経験のない私を温かく迎えてくださり、本当にありがとうございました。また、塚本前監督、田村球友会会長、手塚監督には、特にお世話になりました。心より感謝申し上げます。次期部長については、すでに内諾を頂いております。ご安心ください。

最後に、今後の球友会の皆様のご健康とご多幸を祈念するとともに、後輩たちへのご支援とご声援をお願いして、私からの挨拶とさせていただきます。短い間でしたが、大変にお世話になり、本当にありがとうございました。

ご挨拶

球友会会長 田村 好司

同志社軟式野球部球友会会員並びに現役部員の皆様には、ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は球友会へご支援ご協力誠にありがとうございます。

今年も新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、長期にわたる自粛生活が続いています。この冬には第6波による感染拡大が懸念されています。気を緩めることなく感染予防をお願いします。又、ワクチン接種は済ませたでしょうか？自治体により状況は違いますが、機会があれば早めに接種いただければと思います。

また、例年同じことを書いてしまいましたが、今年は特に8月の長期の大雨による大きな被害が広い範囲で発生しました。年々地域も広がり被害規模も大きくなっているように感じます。本当にいつどこで起こっても不思議ではありません。避難指示や避難勧告などが自治体から発せられますが、避難などの最後の判断は個人の判断になります。お住いの自治体で作成しているハザードマップなどから地域で発生する可能性がある災害を想定し、日ごろから避難などの対応を考えておく必要があると思います。

さて、今年の春季リーグ戦は開催されましたが、緊急事態宣言により途中中断、再開後には関西学院が出場辞退となり、残り試合は5校でのリーグ戦となりました。残念ながら最後立命館に敗れ2位となりました。リーグ戦休止中京都市のグラウンドが使用できず練習不足が影響した

と思われます。ただ、今年から関西4リーグ（関六、近畿、西都、京滋）の2位のチームによる関西ブロック大会が開催され優勝チームが全国へ行けるようになりました。しかし佛教大学に敗れ全国へは行けませんでした。更に、昨年同様夏合宿も実施できませんでした。秋季リーグ戦は開催されていますが、9月16日現在、3勝2敗と苦戦しています。後半戦には奮起し優勝を目指し最後まで諦めずに戦い抜いてほしいと思います。また、例年の西日本大会は今年から全国大会となっています。さらに、今回の秋季リーグ戦は連盟より緊急事態宣言下の感染予防対策として、ユニフォームを着たものでないと観戦できないとの通達があり、監督をはじめ家族も観戦できない状況です。少し寂しい気がします。

球友会の活動においても、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から昨年の秋の総会、今年の夏季総会は中止とさせていただきます、関係者のみで決算の確認などを行いました。また、今年の秋の総会、OB戦及び懇親会も中止となる可能性があります。従来通りの活動ができませんが、何卒ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。来年こそは通常に開催できることを願っております。

今後とも軟式野球部及び球友会活動へのご協力ご支援の程よろしくお願い申し上げます。同志社大学軟式野球部関係の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

ご挨拶

監督 手塚 整廣

同志社大学体育会軟式野球部球友会の皆様並びに現役部員の皆様にはますますのご健勝のこととお喜び申し上げます。

昨年経験した、新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態がまさか本年度も続くとは思いませんでした。年末から年始にかけての感染拡大によって再発令された緊急事態宣言によって新年度の活動も制限されました。本年は東京遠征で計画されていた早稲田大学、立教大学との定期戦も、愛媛県愛南町での春季合宿も見送られました。丸井前主将から引き継いだ星野新主将率いる新チームも満足行く練習ができないままでの春季リーグ戦の開幕を迎えました。

昨秋の新人戦の決勝戦でも苦汁をなめた立命館大学を破つての全国大会出場を目指してのリーグ戦でしたが初戦の関西学院大学によもやの敗戦からのスタートとなってしまいました。

迎えた次戦の立命館大学戦は壮絶な打撃戦となりましたが6点差を逆転しての勝利をあげました。両校はその後取りこぼすことなく1敗同士で最終戦を戦いました。何とか相手の好投手の攻略を図ったのですが、力及ばず2位でリーグ戦を終えました。

何とか全国大会出場をと目指した西日本ブロック大会も準決勝で佛教大学に敗れて叶いませんでした。

今年から全日本大学軟式野球連盟の大会の開催方法が変更になっています。例年開催されていた長野県での全国大会が11月に大阪で開か

れます。出場校は、秋季リーグ戦の優勝校で西日本大会に代わる大会となります。今までの全国大会は名称を全日本選抜大会と変更して各地区リーグ戦の優勝校と地区ブロック代表7校を加えた30校で開催となりました。

現在、秋季リーグ優勝に向けてチームは戦っている最中です。ここで優勝すれば全国大会への道が開けます。何とか頑張つて欲しいです。

昨年、満足な活動ができずに引退した先輩の分まで背負つて活動する現幹部を中心としたチームに大いなる声援を送りたいと思います。

事あるごとに言われておりますが、コンプライアンスの問題です。チームとして行動している時と個人になった時では意識も違うでしょうが、常に同志社の名を背負う誇り高き体育会の一員であることを忘れず「野球もマナーも日本一」のチームであつて欲しいと思います。

最後になりましたが球友会の皆様、平素より学生へのご支援、ご声援誠にありがとうございます。なにとぞ、末永くご支援のほどをお願い申し上げます。

一日も早い事態の終息をお祈りするとともに、安心して過ごせる日々が一刻も早く到来することを祈念いたします。

主将として

2021年度主将 星野隼人

秋も一段と深まり、寒さが身に染みる季節となりました。同志社大学体育会軟式野球部の諸先輩方におかれましては、ますますご健勝のことと心よりお慶び申し上げます。

丸井主将率いる昨年度のチームは、後輩である我々に対して近い距離感で接していただき、それぞれの個性が強いながらも何かしらの形でチームに貢献しようとする姿がとても印象に残っています。そんな先輩方とプレーできたこと、プライベートでもお世話になったことは私の人生の中でも貴重な経験となりました。

昨年度のチームの目標は「全国大会、西日本大会の優勝」でした。一昨年度に全国大会3位、西日本大会優勝という成績を収めており大きなプレッシャーのかかる年だったと思いますが、新チームが始動し丸井主将はじめ幹部の方々がチームを引っ張る姿に我々選手は付いていこうと意気込みました。そんな中、新型コロナウイルスの感染が発生し、その影響で大学より4月から3ヶ月間の活動自粛要請を受け、春季リーグ、全国大会が中止となりました。7月に活動再開が認められ練習が再開しましたが、目標としていた全国大会が中止となり先輩方のショックは計り知れないほど大きかったと思います。練習時間や感染対策などさまざまな制約を受けながら、残された秋季リーグ、西日本大会（1試合のみ）

代替大会）に向けチームをまとめ、秋季リーグでは立命館大学に2敗し2位に終わりましたが、石川県立大学との西日本大会では見事な勝利を収めました。

先輩方が成し遂げられなかった全国大会優勝に向け我々も新チーム始動から意気込みましたが、関西学院大学との春季リーグ初戦に敗れ、立命館大学に2敗し優勝することができず全国大会への出場すらできませんでした。リーグ戦で勝つことが、またチームをまとめあげることがどれだけ難しいのかということを私は主将として身を持って知り、現在秋季リーグ優勝を目指し日々精進しております。

同志社大学に入学し体育会軟式野球部に身を置いて過ごされた4年間は他の学生には経験できないような貴重なものだったのではないかと思います。野球技術向上だけではなく礼儀やマナー、主体性や気配り心配りなど社会に出てから必要とされる要素を心得ることができた期間であると思います。多くの方々のご支援を賜りながらこのような素晴らしい環境で野球ができることに感謝し、私自身も残りの学生生活を実りあるものに行いたいと思います。

最後になりましたが、日頃から多くのご支援を賜りまして誠にありがとうございます。我々軟式野球部の更なる発展のために今後とも多くのご支援、またご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

「新球友によせて」

立命館大学体育会軟式野球部 井上 敬渡

同志社大学体育会軟式野球部OBの皆様、初めまして立命館大学体育会軟式野球部主将の井上敬渡と申します。私は一回生の秋季リーグから試合に出させていただいており、同立戦を計十一戦経験致しました。一回生秋季リーグ、二回生春季リーグでは同志社大学に四連敗、二回生秋季リーグで勝利するも西日本大会決勝でリベンジを果たされ、優勝を逃しました。同志社大学に敗戦するたびに先輩方は涙を流し、それを見ているうちに私の軟式野球の目標は同志社大学に勝利することへ変わっていききました。

同立戦には私の野球人生十六年間で感じたことの無い雰囲気がありました。グラウンドに立つ選手全員がお互いの大学を背負い、そのプライドと誇りを胸に勝利を掴みにきます。その気持ちの強さは他大学とは比べものになりません。よって大差のつく試合など一度も無く、毎試合手に汗握るものとなりましたが、その分勝った時はどの試合よりも嬉しく、負けた時はどの試合よりも泣きました。

そのような経験を経て、私は三回生の春から主将に就任し、それから同志社大学が常に頭に浮かんでいるような生活が始まりました。野球が上手いだけでは勝てない、バッテリーを育てるだけでは勝てない同志社戦にどう臨むかを幹部全員で考え、「同志社の雰囲気にもまれないチーム」

という答えを出しました。同立戦に実力差など元々なく、ましては選手全員が最大の集中力を発揮するため、スキなどは出ません。そこで大切になるのはベンチの応援の迫力、出ている選手の闘志、その両方から成る雰囲気で勝ることが勝利への最大の近道と考えました。

結果的に秋季リーグ、春季リーグ共に同志社大学に勝利することができました。野球人生最大の喜びと立命館大学の成長を本当に感じるこゝとができた瞬間でした。しかしながら、良きライバルである同志社大学軟式野球部が存在していなければ、立命館大学軟式野球部はこま成長していません。同立戦は選手全員、幹部、そして自分自身を成長させてくれる場でした。

私は決して鎬を削った同立戦、そして良き戦友である同志社大学軟式野球部を忘れません。またその意思是後輩にしっかりと受け継いでおりますので、これからもますます同立戦が熱いものとなっていくと感じます。そしていつかどちらの大学も全国制覇することを四回生一同願っております。

改めまして、四年間、本当にありがとうございました。これからも同志社大学軟式野球部さんの益々のご活躍とご健闘を心からお祈り申し上げます。この度はありがとうございました。

全日本大学軟式野球連盟概要

1)名称

全日本大学軟式野球連盟

2)代表

会長 不在（代行）松下 聡、北村 孝嗣

3)設立

昭和 53 年

4)事務局

東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-27-7 軟式野球会館 5F

TEL 03-3401-0824 FAX 03-3401-1842

5)加盟連盟(23 連盟)

北海道地区大学軟式野球連盟、奥羽地区大学軟式野球連盟、東北地区大学軟式野球連盟、北関東大学軟式野球連盟、東京六大学軟式野球連盟、東都大学軟式野球連盟、首都大学軟式野球連盟、東関東大学軟式野球連盟、南関東大学軟式野球連盟、関東新大学軟式野球連盟、東京新大学軟式野球連盟、東海学生軟式野球連盟、長野県大学軟式野球連盟、新潟地区大学軟式野球連盟、北陸地区大学軟式野球連盟、近畿学生軟式野球連盟、関西六大学学生軟式野球連盟、西都大学軟式野球連盟、京滋大学軟式野球連盟、中国地区大学軟式野球連盟、四国地区大学軟式野球連盟、九州地区大学軟式野球連盟、沖縄県大学軟式野球連盟

2020 年 10 月 1 日現在

以上

全日本大学軟式野球連盟(公式ホームページ)<http://www.junbf.jp/>より引用

軟式野球は、大正時代中期に日本で考案されたゴム製ボールを用いてプレーする野球で、硬式ボールの野球よりも危険性が少なく、より幅広い年齢層で普及し、野球の大衆化に貢献してきました。

大学野球を通して、野球ができることは多くの人の支えがあつてのことであるということを理解し、野球の技術面の向上だけでなく、人間性が育成されることが目的である。現在、野球をプレーする人口が少なくなりつつある状況で、そのような状況を打破するような政策や施策を考え、より良い連盟が築きあげられるように部員一人一人の行動が重要となってくるのは間違いない。

連盟委員 北澤 秀太

随
想

随想

政策学部四回生 丸井 博実

大学一年生春、入部は決めていなかったが、高校の野球部のマネージャーと一緒に練習見学に行き、初対面の松井龍一に「あいつ女と来やがつて」と白い目で見られたところから私の軟式野球部生活は始まっていたのかもしれない。

同志社大学への入学が決まってから、準硬式野球部か軟式野球部に入部することを漠然と思い描いていた。準硬式野球部ではなく軟式野球部に入部を決めた理由はいくつかあるが、はつきりと大きな理由が一つある。それは、準硬式野球部に高校の先輩が一浪し、同期での入部となり、接し方が難しくなると考えたからだ。そんな理由で選んだ軟式野球部で、主将を経験すること、全国大会や西日本大会に出場すること、コロナの影響で野球人生最後の年を思い通り活動できなくなるとは当時は考えてもいなかった。

二年生の夏、自分たちの代の役職を決めることになる。皆さんご存知の通り、私はそこで主将になることが決まる。正直、主将になることは是が非でも避けたかった。一、二年生の頃は先輩たちの目をうまく盗み、自分のやりたいように野球をし、何の責任を負うこともなく試合に出場し、楽しくプレーをしていた。それが主将になる事で、様々な責任を背負わなければならないし、チーム全体を見渡さなければならなくなる。何より、前年度の成績が凄まじすぎて、相当なプレッシャーを感じていたのも事実だ。本当に主将がしたくなかったし、今、二年生の夏に戻

れるなら、「主将は四回生の最後の最後まで残ってくれる先輩がいるからその人に任せたい。」とでも言うだろう。

そんなどうしても主将をしたくない気持ちでいたが、なぜ最終的に主将になる事を決意したかと言うと、古谷が「博実がほんまに、どうしても、主将をしたくないって言うくらい嫌なら俺がやるよ」と言ってくれたからだ。そこまで言うくらい自分を主将に推してくれているのかなと勘違いしてしまつた。大変お恥ずかしい。今思えばこの時に「絶対に主将は嫌。なんなら幹部も嫌。」とでも言える強い気持ちがあれば、一、二年生の頃のように楽に野球ができていたのかもしれない。

主将になるということは、背番号が自由に選べない、試合前にじゃんけんをするというだけではない。練習後みんながラーメンを食べに行っているも、キャンパスで部長と話し合いをしなければならないときもあるし、旅行会社の方の営業を受け、試合後にランチに行かなければならないときもある。主将とはそういう役職だ。主将になることは本当にしつかり考えて決断すべきだ、と将来の主将候補にこの随想を読んで欲しい。そして少しでも伝わればこの随想にも僅かではあるが意味があったと言えるだろう。

末筆にはなりますが、監督、球友会長を始め、諸先輩方には多大なるご支援を賜りましたことを心より御礼申し上げます。今後の軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念致しまして、私の随想とさせていただきます。

随想

政策学部四回生 川邊 裕大

魂を捧げる事の出来た四年間だった。正直、入部を決めた当初は本気で全国制覇を目指すなど想像もしていなかった。「野球が無い生活は想像できない。」そう思い入部したが、楽しく野球ができればいいと思っていた。しかし、野球に本気で取り組む先輩、同期の熱さのおかげで、気づけば私の大学生活は軟式野球部そのものであった。部活は勿論、部活のない日も長期の休みも軟式野球部に染まっていた。公私を問わず時間を共にし、全国制覇を目指す、最高の四年間だったと感じる。

自分達の代は、自分でも良く分からないままに時間が過ぎていった。二回の夏に全国大会を経験し、副主将として、自分達の代では、先輩たちを超え、全国優勝を目指すそうと思い、全国大会へ繋がる春のリーグ戦優勝を目指していた矢先、誰も経験したことのない、新型コロナウイルス感染症の災禍に見舞われた。新チームの土台作りにおいて非常に重要となる合宿は中止となり、拳句の果てには部活動の活動禁止にまで至った。今まで当たり前のように行っていた部活動が突然無くなり、自粛を求められる日々。結局、自分達が目指している全国大会、それに繋がる春のリーグ戦も中止となり、今まで経験した事のない虚無感が押し寄せた。活動再開後も、秋のリーグ戦、その先の大会が行われるのかは不透明のままであり、練習試合も中々できない日々が続いた。間違いなく、部員一人一人が様々な想いを持っていたであろう。中には「引退」の二文字が頭に浮かんでいた部員もいたかもしれない。幹部としても、チームの目標設

定の曖昧さが存在し、非常に難しい時を過ごした。

結果的に秋のリーグ戦は開催されたが、開催中も上位大会の事は不透明であった。ライバル立命館大学には一勝もすることができず、六勝二敗の二位で自分達の代のリーグ戦は幕を閉じた。しかし、前代未聞の状況の中、自分達の最善は尽くすことが出来たと思う。一試合だけの西日本大会では多くの選手が活躍し同志社らしい野球が展開できた。他人の結果を自分の事の様に喜ぶ、同志社らしいチームの一体感を最後に感じることが出来て非常に良かったと思う。

そうした中、「もう一度全国大会に出たい。」この一心で四回でもチームに残らせてもらった。就職活動もあつたため、春のリーグ戦には参加できなかったが、就職活動終了後、六月からは練習に毎日参加し、再び全国大会を目指した。迎えた関西選手権では、五月まで練習に参加できなかったにも関わらず四番を任せてもらった。この事には後輩に大いに感謝したい。

最後にはなるがこの四年間、日本中の多くの大学生が遊びに時間を割いている中、軟式野球に夢中になり、同期のみんなと共に過ごした時間は最高であった。「このメンバーで最後まで野球が出来て良かった」心からそう思う。みんな四年間ありがとう！

末筆ではございますが、手塚監督、奥田部長、田村会長をはじめ、多くの先輩方には日頃から、多大なるご指導いただいたこと感謝申し上げます。今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々のご活躍を祈っています。

随想 スポーツ健康科学部四回生 古谷 将太

同志社大学に入学し、体育会軟式野球部への入部を選択したことは本当に正解だったと思える4年間だった。入学当初はサークルに入り緩く大学生活を過ごしたいと考えていた私だったが、一応と思ってチラシをもらっていた軟式野球部の見学に訪れた際、部の魅力に惹かれた。初めは監督やコーチもおらず全て学生が主体となつて練習や試合を行うという環境にサークルと変わらないのではと偏見を持っていたが、質を追求する厳しさや先輩後輩関係なく声を掛け合う環境など学生主体だからこそ生まれる先輩たちの一体感に魅力を感じた。学生主体や先輩たちの雰囲気には惹かれた部分は大きいですが、入部を決めた最大の決め手は「松井龍一」という男の存在だ。見学に訪れた際私のほかに唯一参加していたのが松井だった。練習を見て大した事がないというような態度を見せ、俺はここでエースになるんだと言わんばかりの自信を持っていた彼とは、共通の趣味の話題で盛り上がり、意気投合した。そんな松井は、部活に入るか迷つてゐる私と一緒に野球をしようと強く勧誘してくれ、これがきっかけとなり入部を決心した。今思えば、松井との出会いがこの4年間で得た多くの経験につながっており、密かに感謝している。

入部後は、学生主体やチーム最適という言葉に胸に、自分の役割を考え枯れるまで声を出したり、全力疾走でのバット引きを披露したりと常にチームのために想い部活に励んでいた。その姿を見てくれていたこともあつてか、自分たちの代では皆が副主将に選んでくれた。自分たちの代

では、新型コロナウイルスの影響もあり思うように活動もできず、春リーグや全国大会も中止になってしまい、唯一開催された秋リーグはチームを優勝に導く事は出来なかった。副主将として幹部としてチームにどれだけ貢献できたかは分からないが、最後の西日本の代替試合でチームのみんなが笑顔で追われたことは本当に良かったと思つている。

この時期と共に引退することを決めていたが、悔いを残したまま引退できない、まだチームのために力になりたいという想いがあり現役続行を決意した。後輩たちにとつては邪魔なおつさん4回生だったかもしれないし、結局全国と一緒にいく事はできなかったけど、我がままな先輩を残らせてくれて本当にありがとう。

そして4年間ほとんどの時間を一緒に過ごし、迷惑を掛け合いお世話をし合つた同期には本当に感謝しかない。ありがとう、そしてこれからもよろしく。

最後になりますが、手塚監督、田村球友会会長、奥田部長をはじめとする多くの諸先輩方には多大なるご支援を賜りましたことを心より感謝致します。今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々のご活躍を祈念しております。

随想

政策学部四回生 川端 大介

当部に入部してよかつたと今強く思うのは、熱くなれる環境だったからだ。体育会として取り組む大学野球は、グラウンド内、外どちらにおいても自分を成長させてくれた。試合にはすぐに出場することができた。結果もほどほどについてきて、特に挫折をすることもなく活躍できていた。そんな中で私が熱くなれたのが、宿敵立命館大学との試合だった。当部のレベルと同等以上の野球をする立命館の選手たちを見て、「立命だけは自分が打って倒す」と謎の信念を抱いていた。チームも立命戦は目の色を変えて臨む。あの緊張感と高揚感が私のモチベーションの源だった。あのひりついた雰囲気は簡単に作り出せるものではない。これまで歴代の先輩方がしのぎを削ってきた伝統があり、それに加えて自分たちも全力で練習して臨んでいるからこそ生まれるものだ。楽しさと厳しさのメリハリをしつかりつけた活動ができる当部の環境と伝統に感謝したい。私は練習中、尊敬する先輩から何度か愛の鞭を食らったが、今思えばその厳しさにも感謝できる。

グラウンド外の話をしたい。二回生の夏頃、自分たちの代の役職が決まり、私は主務になることが決まった。というか会計の時からほとんど決まっていた。幹部を中心にいざチーム作りを始めるぞと言った矢先に、「自粛」という聞きなれない言葉が表れる。活動自粛、春リーグ及び全国大会の中止。最高学年としてのモチベーションを根こそぎ奪っていった。情勢は日々大きく変わり目標がなかなか定まらず、開催できるかわからな

い試合に向けて努力するのは簡単ではなかった。その中で行うチーム運営に必要な業務は、正直苦痛だった。監督者の方々にも支えていただきながら、何度もご迷惑をおかけした。それでも何とかやり遂げたときには、何か大きなことを成し遂げたわけではないのに、大きな充実感が残った。結果はもちろん大切だが、それと同じ程「自分の役割にどれだけ真剣に向き合ったか」が大切で、それができるやつはもれなくカッコいい。綺麗ごとだが、私は本気でそう思っている。

次に同期、後輩のみんなへ。全国が無くなっても三栖まで通えたのはみんなと過ごすのが好きだったからです。全員に感謝しています。本当にありがとう。照れくさいのでこれ以上は書けません。けどやっぱり、自分らの代でも全国目指したかったな。

末筆ではございますが、手塚監督、奥田部長、田村会長をはじめ、多くの方々にお世話になりました。四年間ご指導、ご支援いただき、心より御礼申し上げます。特に当代の活動は、新型コロナウイルス感染症の影響で前例のない形式となりましたが、その状況下でも可能な限り全力で野球ができる環境づくりを支えていただきました。そしてご指導いただく中で、自分の至らない点を多く自覚し、改善に努める機会を設けてくださりました。この経験は社会人になるうえで本当に貴重で有難いものであると感じています。ありがとうございました。今後の同志社大学体育会軟式野球部のますますのご活躍を祈念しております。

随想

社会学部四回生 長 拓矢

「キラキラした学生生活が送れそうだ。」田舎者の私はそんなイメージから同志社大学を選んで受験した。入学後は周りの友人と合わせるように野球サークルやバイトに時間を使った。しかし目標のない日々に嫌気がさした。なによりサークルは自由参加であるが故に、練習に来るのか来ないのかもわからないようなチームメイトと野球をすることに楽しみを見いだせなかった。そんなある日、同じ学部の人から知り合いに軟式野球部員、松井君がいることを聞いた。そこから松井君伝いに部の練習の見学をさせていただき、一回生の夏の初め頃に入部の決心をした。軟式野球部の活動では様々な経験をさせていただいた。特に嬉しく思ったのは二回生の夏に全国大会のベンチメンバーに選んでいただけたことであつた。先輩方や同期には魅力的な選手が多く私は埋もれることが多かった。しかし「代打」という形でチャンスを与えただけで少しづつ増えたことで、この機会を逃すわけにはいかないと感じた。試合では投手のタイミングや球種、癖など毎回必死になって打席に立った。そのおかげか少しづつ結果を出すことができ、全国という舞台で共に戦わせていただくことが叶った。この経験はこれからも財産になると感じる。

また、悔しくつらい経験も多かった。全国大会を終えた後、私は打撃の調子を崩し、他に何か突出して秀でた能力もなかったため毎日練習で焦っていた。試行錯誤するも不調の原因がつかめなくて苦しい時期だった。そして秋の西日本大会ではベンチアウトすることとなった。メンバー発表

の集合の後に当時の平井主将にかけていただいた言葉に涙が出たし、今でもその場面は心に残っている。そこから正直野球に身が入らない気持ちもあつたが、チームが激闘を繰り返しながら決勝まで駆け上がる姿を見て当然熱くなった。優勝の瞬間溢れた多くの人の笑顔が野球というチームスポーツの素晴らしさを再認識させてくれた。そのためこの悔しい経験もまた自分のためになったと今では考える。

振り返ってみると入学当初思い描いていた大学生活とは大きく異なり「勝利と結果に執着した泥臭い学生生活」に思われる。しかしながらここまで一生懸命になったのも、途中入部にもかかわらず仲良くしてくれた同期の仲間がいたからだ。面と向かって言葉には出しにくかったが、このチームメイトたちとする野球が楽しいと思えたことに大変感謝している。三回生時は思うような活動ができなかったが、本当にこのチームにいて良かった。また先輩方や、後輩、家族など多くの方の支えがあつたからこそ活動ができていたことに感謝し、これからも精進していきたい。

最後になりましたが、手塚監督、奥田部長先生、田村球友会会長、藤森コーチをはじめ諸先輩方には、多大なるご支援、ご指導を賜りましたことを心より御礼申し上げます。今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念しております。

随想

心理学部四回生 古川 惇也

私は同志社大学に入学し、体育会軟式野球部と野球サークルのどちらに所属しようかと悩んでいた時期があった。高校時代、最後の夏の大会でゴールド勝ち寸前のところで逆転負けを喫し、非常に悔しい思いをしていた。負けず嫌いな私はこのままで野球人生を終わらせたくないという気持ちから、日々練習を重ね、熱い思いで野球に打ち込める体育会軟式野球部に入部する事を決意した。他にも、練習会に参加した時の先輩たちの雰囲気や、体育会とサークルで同じように迷っていた古谷との会話も私の背中を押してくれることになり入部を決意した。しかし、高校時代の友人からは「サークルであそんでそうやのに意外やな」と言われた。これがまた私の反骨心を剥き出しにすることとなり、空回りするほどにやる気に熱を帯びたのを今でも覚えている。そんな私に先輩から体育会本部の仕事の推薦を頂いた。最初は乗り気ではなかったが、今では総務部長という重役に就くほどになり、本当に良い決断をしたと感じている。他にも、ベンチメンバーにすら選ばれなかったが全国大会では三位、西日本大会優勝など、これまで経験したことのない貴重な経験をすることができた。全国大会ではベンチ外メンバーながら「我らのクライフ」という応援歌を自ら作り、熱唱するほどだった。これまでベンチ外メンバーになつてここまで熱くなれたことはない。しかし本当に、先輩や同期に恵まれ、このメンバーのためなら何でも尽くそうと思えた。この想いは後にも活きる事になる。私達の代になった時に、夜を震撼させているコ

ロナウィルス蔓延があった。これにより、春季リーグ戦が中止となり、合宿もすることができず、合宿係の仕事も満足するほどにはできなかった。私たちの代で唯一のリーグ戦となった秋季リーグ戦を迎えた。勿論スターティングメンバーとして活躍したいという想いで練習に取り組んでいたが、右肩を負傷し、思うようにプレーができなくなってしまった。しかしそこで腐るのではなく、チームの為にできる事やチーム最適とは何かを考えるようになった。このように思えたのもこのチームを好きにさせてくれた同期や後輩のおかげだ。そこで代打や代走の為に練習を中心にするようになった。実際にリーグ戦で代走として出場し、チャンスを広大する盗塁やチームの勝利を決定づける得点を決めることができた。秋季リーグ戦の最終戦では、腐らずにプレーし続けた姿を見てか、幹部は、思うようにプレーできない私であったがスターティングメンバーとして起用してくれた。体育会軟式野球部に所属して本当に多くの貴重な経験をする事ができた。先輩、同期、後輩には本当に感謝している。

筆末ではございますが、奥田部長、手塚監督、塚本総監督、田村OB・OG会長、藤本事務局長をはじめ諸先輩方には、多大なるご支援、ご指導を頂き、心から御礼申し上げます。同志社大学体育会軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念致します。

随想

スポーツ健康学部四回生 水田 大成

「大学って、面白くないな」、思えば入学当初、私はこんな言葉が口癖だった。当時特にやりたいこともなかった私は、その場の流れでなぜかバスケットボールに加入させられそうになっていた。そこでの活動は、私にとつて退屈なもので、上っ面の会話をし、面白くもない冗談に対して無理やり口角を上げ、偽りの笑顔を作るといふようなもう一人の別の自分を演じる生活を送っていた。そんな自分を押し殺すような生活には、一か月も持たずにガタが来ていた。何か面白いものはないかと探しているうちに軟式野球部のポスターを見つけた。それを機に大学ではやる気がなかった野球への情熱が復活し、気が付けば、当時主務だった田川さんへ電話し、練習参加を申し込んでいた。練習に参加した私だったが、そこで私はこれはダメだと感じた。レベルが違いすぎた。肩の強さ、パワーすべての分野で私とはかけ離れていた。この時間は何とかやり過ごそうとフリーバッティングで守備についていた時、当時三回生だった土井さんと稲葉さんに目を付けられ、入部しなかったら所属している学部に行くという脅迫めいた熱心な勧誘を受け、私は足を震わせながら二つ返事でこう答えてしまった。「はい、入ります。」これが私の軟式野球部での活動のスタートとなった。

このような経緯で入部した私だったが、軟式野球部での活動は私の想像以上に充実したものとなった。軟式野球部での活動で学んだことは多くあるが、ここでは代表的なものを一つ上げたい。それは手塚監督が常

日頃おっしゃっている「チーム最適」のことである。私は、レギュラーではなく、全国大会出場が決まったときも当然ベンチ外だった。しかし何とかチームに貢献したいと考えていた私は、初の全国大会出場でみんな緊張しているだろうと考え、坊主にすることでみんなの緊張をほぐそうとした。チームの勝利のためなら髪の毛ごとき惜しくなかった。またベンチ外での応援も力を抜くことをなく、声がかかるまで応援し続けた。試合に出場したチームメイトの頑張りがあり、ベストまで勝ち抜くことができたが、その際に当時、主将であった平井さんからお褒めの言葉をいただき、チーム最適の重要性を改めて認識することができた。

さらに技術面、精神面、体力面の点で大きく成長させてもらったと感じている。私がここまで成長できたのは、周囲の支えのおかげであり、キヤッチャーのことを一から教えてくださった森川さん、私のブロッキング能力を上げるためにわざとワンパンを投げてくださった藤本さん、部活だけではなく学校でも世話になった古谷、自主練習に誘ってくれた吉田、他にも多くの同期、先輩方、後輩、マネージャーに支えてもらったおかげであり、本当に感謝している。この経験は、一生の宝として大事にしていきたい。

最後になりましたが、塚本総監督、手塚監督、奥田部長、田村球友会会長をはじめ、諸先輩方には多大なるご支援ご指導を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。同志社大学体育会軟式野球部の益々のご活躍を祈念しております。

随想

理工学部四回生 吉田 旭浩

私は内部進学であつたということもあり、高校を卒業する前から大学で何をしようかと考える時間があつた。大学では勉強を頑張りたい想いと、野球も続けたい想いがあつた。そして、どうせ野球を続けるならサークルではなく、真剣に勝利を目指す体育会でやりたいと思つていた。いざ軟式野球部に入部してみると同期の中で理系は一人、履修科目の多さから練習に出られない日も多かつた。遠征や公式戦でも実験科目とかぶつてしまい早退、欠席した日も数知れない。ましてや実力も及ばない私は試合の出場機会にはもちろん恵まれなかつた。そんな私が試合に出場するために人より練習をするしかなかった。練習前からティーバッティングをし、毎晩バットも振つた。それでもこの四年間満足を得られる結果は掴み取れなかつたが、この四年間にかけた時間は決して無駄ではなかつたと思う。

個人としては苦い思い出も多いが、チームとしては多くの経験、喜びを得られた。二回生の時には全国大会に出場、西日本大会制覇も経験できたことはとても印象的な思い出の一つだ。やはり試合に出られなくても勝てば嬉しいし、試合に出ているメンバーが活躍できるように手助けするのもベンチメンバーの役目であつて、こういうスタメン以外の活躍が目立つチームが試合に勝てる、流れを呼び込むチームだなあというのを学ばせてもらった。

このお手本のような先輩たちのチームに近づけるように頑張つていた

矢先、コロナ禍による、リーグ戦、各大会の中止や縮小を受けとても満足のいかない一年であつた。それもあつて私は四回生でも野球を続けたいという意志が生まれ、現役を続行することにした。例年、現役続行する選手は各世代でも主力で活躍してきた選手ばかりであつた。そのため、出場機会も少ない私が残つてもいいのかという葛藤もあつた。しかしながら、私のように野球を続けたくても、主力選手が残る風潮で引退を決断する後輩が少しでも減つてほしい、試合に出られなくてもチームのためにかしたい、という想いから現役続行を決断した。そして九月現在も活動を続けているが、チームを客観的に見ることでできて、各世代から良い面、悪い面を学ばせてもらえるし、現役を引退しては得られない多くの経験をさせてもらっている。これから引退の時期を迎える後輩には、現役を続行するのも一つの選択肢として考えてほしい。

最後に主将丸井をはじめとする幹部の四人、コロナ禍で思うような活動ができない中チームを導いてくれてありがとう。この四年間のほとんどの時間を共にした同期のみんな、マネージャーとして陰ながら大きく支えてくれたあかねちゃん、最高の時間をありがとう。

末筆にはなりますが、手塚監督、塚本総監督、田村球友会会長、奥田部長をはじめとする、多くの諸先輩方には多大なるご支援とご声援を賜りましたことに心より感謝いたします。そして今後の同志社大学体育会軟式野球部の更なる活躍を心より祈っております。

随想

社会学部四回生 松井 龍一

高校三年間私は、空手に捧げたのであった。私は小学校から中学校まで野球をしていたが、高校では一年生の六月まで野球部に所属していたが、そこからは以前経験があった空手部に入部することになった。空手部ではすごく親しみやすい環境で仲の良いチームメイト、試合で負けても何一つ怒らない顧問の先生など楽しい日々を過ごしていたが、全く刺激が感じられなかった。そして大学では刺激のある野球部に入部したいと思い準硬式野球部と軟式野球部の見学に行こうとした。見学の前に同志社大学内で行われていた部活動のブース紹介で準硬式と軟式野球部があったため覗きにいくと準硬式のブースの人は非常に態度が悪くよくない雰囲気を感じたため軟式野球部のブースを覗いてみると非常に明るく楽しそうな笑い声と良い雰囲気先輩が座っておられたため軟式野球部の体験に行ってみることにした。いざ体験に行ってみると当時主将だった松井 壘先輩をはじめ非常に刺激ある雰囲気の中練習をさせているという環境で自分を成長させたいと思い、すぐさま体育会軟式野球部に入部した。入部してからは投手として先輩の田川さんや、藤本さんのような投手になりたいと思い練習に励んだが、なかなか結果が出せず、苦しい日々が続いた。特に苦しかったのは、二回生の秋から冬にかけてだ。周りの同期や後輩が試合に出る中、私はなかなか試合に出ることが出来ず、そのことを親に相談すると打者に転向してもいいのではないかとアドバイスをもらい打者転向も意識し始めた。しかし周りのチームメイト

の目や、自分の中にある投手として活躍出来ない悔しさなど色々な感情が一気に込み上げストレスの溜まる日々だった。今思えばこういった苦しい経験というのは非常に大切なものだと思ふ。なぜなら人間は何か目標を定めてその目標を達成しようと必死に努力する生き物だ。自分のした努力に対して結果が伴わないと苦しいといった感情が芽生えたり、一歩近づくと思ふと嬉しいと感じ、自信がつく。このように何か目標がありその目標のために必死に努力する人間は輝いて見える。目標やゴールが設定されていない人間は苦しみを感じないし、目標があった頃の嬉しさや輝きはないと思う。だからこそ私は入部当時の苦しみや辛いやいった感情も大切にしたい。結果として大学生活三年間は軟式野球部の捧げたわけだが、途中コロナの影響でなかなか試合や練習すらもできない期間があったが、僕としては途中で辞めずにやり抜いたことにこそ価値があると思うし、そこには仲間と流した熱い青春の日々が心に刻まれている。これからの人生の中で貫きたいことは自分に正直に生きることだ。死の前に自分の人生を振り返ってみて自分に嘘のない信じたものを貫きとうしたと私は思う。最後になりますが、手塚監督、塚本総監督、奥田部長、田村OB会長、藤村コーチをはじめ、多くの方々に支えられて今の私たちがいると思います。同志社大学体育会軟式野球野球で野球ができたことを深く感謝したいと思います。

随想

法学部四回生 東原 成勲

「練習楽やし、休みも多いから野球部入ろや」

中学時代からの友人にそう言われた私は、深く考えることもなく体育会連盟軟式野球部への入部を決めた。私自身野球をしていたのは中学生の頃までであり、高校時代はハンドボール部に所属していた。そのため通用するとは当然考えておらず、通用するように努力しようとも思っていなかった。

実際、入部してから引退に至るまで私のピッチングが通用したことは一度もなかった。球が遅いのにもかかわらず、フォアボールを連発してはベンチのため息を聞き、帰り道自転車をごきながら松井龍一に相談をする毎日。三年生の最後の年は、椎間板ヘルニア再発による手術でろくに練習ができなかったことや、新型コロナウイルスの影響で全国大会が中止になったことで悔しい一年となった。

正直今振り返ってみても、楽しい記憶よりも苦しかった記憶のほうが圧倒的に多いと思う。しかしそれでも私が軟式野球部を辞めずに努力し続けることができたのは一回生の頃から苦楽を共にした仲間がいたからである。圧倒的に守備がうまい丸井としようた、グラウンド外のガレージまで打球を飛ばすナベ、レフトから大砲のような送球を返す川端、丁寧な送球を返す吉田、ストイックにバットを振り続けた長、ガッツのあるプレーで魅せるふるじゅん、投手から打者に転向した松井、クロスプレーで歯が折れた水田、同年代のマネージャーはいないのにも関わらず最

後まで頑張ってくれたあかねちゃん。どれも私にはまねできない才能であり、本当に尊敬していた。そして、ごくたまに私が練習試合で良い投球をしたときに先輩後輩関係なく「ナイスピッチング！」といつて称えてくれた時や、投手として同じような悩みをもった松井が打者に転向した後にはヒットを打った時は本当に嬉しかった。

入部当初は自分がここまで野球に対して真剣になるとは思ってもいなかったし、軟式野球部に所属していない自分が想像できないくらい苦しくも充実した四年間を過ごすことができ、本当にみんなには感謝している。ありがとう。

現在新型コロナウイルスの影響でなかなか集まらない状況であるため、メンバーと話すことができる機会は古谷と秦とゲームをする時ぐらいだが、これから社会人になった時も体育会連盟軟式野球部とのつながりを大切にしたい。

末筆にはなりますが、手塚監督、奥田部長、田村旧友会会長、藤森コーチをはじめ諸先輩方には、多大なるご支援、ご指導を承りましたことを心より御礼申し上げます。今後の同志社大学体育会連盟軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念いたします。

随想

商学部四回生 飯塚 紅音

私が軟式野球部に入部したのは、好きなことで何か貢献したいという理由でした。野球も好きでしたが、それまでは軽音楽部という全く異なる環境で、演奏する側として練習に励んでいました。特に軽音楽の大会で結果を得られた達成感が忘れられずに、大学でもぼんやりと部活動をしようにと考えていました。そして、選手よりマネージャーになる方がチームに貢献できること、中でも仕事量が多そうなのに生き生きと部活動をやっていた軟式野球部の先輩方に魅力を感じて、入部を決めました。

入部した当初は、体育会の上下関係に慣れていなかったり、同期に他のマネージャーがおらず選手との距離感がつかめなかったりと、空回りばかりしていました。そんな空回りをしていることに、気づいてはいるのに変えられず、自分に嫌気がさしていました。今までとは立場の違う、サポートする側の行動がわかっていなかったため、当然役に立てず、やりがいも分からなくなっていました。それでも必要としてくれた同期や、アドバイスをくれた先輩方、頼ってくれる後輩たちに支えられて、ここまでやってこれたのだと思います。たとえ強豪校相手に劣勢であっても、諦めていなかった姿や、ベンチ内外関わらずチーム一丸となって戦っていた姿は、今も印象に残っています。その中に一員としていたことは、部活動を通して得られた大きな経験だったと思います。

また、最高学年となった三回生の時は、コロナウィルスの流行により先の見えない不安定な一年でした。合宿も大会もなくなり、練習時間す

ら制限される中で、モチベーションを維持するのは大変だったと思います。私自身もマネージャーとして、責任はあるけれど何が正解なのかわからないまま、部活動を行うことに不安を抱いていました。全てが上手くいった一年ではなかったけれど、振り返れば、改めて好きなことをできる時間や環境の貴重さに気づけた一年だったのかもしれない。そして、最後に秋季リーグ戦や西日本大会を、形を変えてでも設けていただいたことは、本当にありがたいことだったと思います。この場をお借りして、感謝を申し上げます。

末筆ではございますが、塚本様、手塚監督、奥田部長、田村球友会会長、藤森コーチを始め、諸先輩方には多大なるご支援、ご指導を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。並びに、同志社大学体育会軟式野球部の益々のご発展とご活躍を祈念致しまして、私の随想とさせていただきます。

四回生終身成績

打撃成績

	打率	打席数	打数	安打	打点	四死	犠打	盗塁
丸井	0.262	147	130	34	19	15	2	26
古谷	0.257	131	113	29	22	8	1	8
川邊	0.244	95	74	18	20	18	0	7
川端	0.328	146	128	42	14	17	0	8
水田	0.001	5	3	0	0	2	0	2
長	0.174	27	23	4	5	4	0	0
古川	0.154	26	26	4	2	0	0	4
松井	0.250	8	8	2	1	0	0	1
吉田	0.278	22	18	5	1	2	2	1

投手成績

	防御率	投球回	打席数	打数	被安打	被本塁打	与四死	奪三振	失点	自責
松井	7.36	7 1/3	37	26	2	1	11	2	7	6
東原	9.00	1	9	3	0	0	6	0	1	1
丸井	4.50	2	10	8	2	0	2	0	1	1
川端	4.50	2	8	8	2	0	0	1	1	1

好敵手

2020年度 秋季リーグ戦

■2020年 9 月 1 日 VS 関西大学①

秋①

豊中ローズ球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
関大	0	1	0	0	2	0	0	0	3
同志社	0	0	5	1	0	0	0	4x	10

※8回コールド

◎成績

【勝利投手】 宮城 【敗戦投手】 棚田

【本塁打】 天内、川邊 【二塁打】 天内、久保田

■2020年 9 月 3 日 VS 大阪市立大学①

秋②

万博公園野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	1	0	0	0	1	4	0	0	1	7
市大	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2

◎成績

【勝利投手】 坂東 【敗戦投手】 横田

【本塁打】 川邊 【二塁打】 天内、木崎

■2020年 9 月 9 日 VS 立命館大学①

秋③

万博公園野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
立命館	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
同志社	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

◎成績

【勝利投手】 栗山 【敗戦投手】 坂東

【二塁打】 木崎

■2020年 9 月14日 VS 甲南大学①

秋④

万博公園野球場

	1	2	3	4	5	計
同志社	5	0	3	0	2	10
甲南	0	0	0	0	0	0

※5回コールド

◎成績

〔勝利投手〕 宮城

〔敗戦投手〕 足立

〔二塁打〕 木崎

■2020年 9 月15日 VS 大阪市立大学②

秋⑤

豊中ローズ球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
関学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
同志社	0	0	0	0	1	0	0	0	×	1

◎成績

〔勝利投手〕 北澤

〔敗戦投手〕 中元

〔本塁打〕 天内、木崎 〔二塁打〕 丸井、川端

■2020年 9 月18日 VS 関西大学②

秋⑥

万博公園野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	0	0	0	2	0	0	2	4
関大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◎成績

〔勝利投手〕 坂東

〔敗戦投手〕 堀内

〔本塁打〕 城 〔二塁打〕 丸井、木崎、星野

■2020年 9 月24日 VS 立命館大学②

秋⑦

岡崎公園球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
立命館	1	0	0	0	0	0	0	0	×	1

◎成績

【勝利投手】 栗山

【敗戦投手】 坂東

【二塁打】 古谷

■2020年 9 月28日 VS 甲南大学②

秋⑧

万博公園野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
甲南	0	1	1	0	1	0	0	0	3
同志社	2	0	0	0	2	2	3	1x	10

◎成績

【勝利投手】 川端

【敗戦投手】 上月

【二塁打】 古川、吉田、木崎、下川

	大学名	立命館	同志社	関西	大阪市立	甲南	勝	負	分
1	立命館		〇〇	〇●	〇〇	〇〇	7	1	0
2	同志社	●●		〇〇	〇〇	〇〇	6	2	0
3	関西	●〇	●●		〇〇	〇〇	5	3	0
4	大阪市立	●●	●●	●●		●〇	1	7	0
5	甲南	●●	●●	●●	〇●		1	7	0

※関西学院大学は参加辞退

～ベストナイン～

投手	栗山（立命館）	最優秀選手	栗山（立命館）
捕手	岩見（立命館）	優秀選手	木崎（同志社）
一塁手	川邊（同志社）	首位打者	浜島（関大）.421
二塁手	小札（関大）	本塁打王	内山（立命館）3本
三塁手	山下（立命館）	打点王	天内（同志社）9打点
遊撃手	片桐（同志社）	盗塁王	家城（関大）内山（立命館）9個
外野手	天内（同志社）	最優秀防御率	栗山（立命館）1.70
	川端（同志社）	奪三振王	栗山（立命館）35奪三振
	福島（関大）		

2020年度 新人戦

■2020年10月15日 VS 甲南大学

岡崎公園球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	2	0	2	1	0	0	0	0	1	6
甲南	0	0	0	1	0	0	0	2	0	3

◎成績

【勝利投手】 北澤

【敗戦投手】 上月

■2020年11月 7 日 VS 立命館大学

岡崎公園球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
立命館	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
同志社	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

◎成績

【勝利投手】 尾高

【敗戦投手】 坂東

西日本代替大会

2020年11月 9 日 石川県立大学

くら寿司スタジアム

	1	2	3	4	5	6	7	計
石川県立	0	0	0	0	0	0	0	0
同志社	4	0	1	2	0	2	×	7

※7回コールド

	投球回	打者	投球数	被安打	被本塁打	四死球	奪三振	失点	防御率
木崎	7	25	87	3	0	0	7	0	0.00

＜二塁打＞ 川邊、木崎

第37回西日本大学軟式野球大会は、コロナウィルスの影響により異例の大会になった。例年とは異なり、各チーム1試合を戦った。同志社は2020年11月9日にくら寿司スタジアムにて石川県立大学との対戦になった。先発は最速140キロ越えの豪腕木崎で、相手打線を終始ねじふせた。打線は、2番主将丸井の一打からチャンスを作り、勝負強いバッティングを見せる7番古谷のタイムリーヒットなどで初回に一気に4点を獲得した。その4回にも3番川端、4番川邊の連打でチャンスを作り、6番長のバットなどで得点を重ね試合を決定づけた。最終学年の選手が多く出場し、全員野球で相手チームを圧倒することができた試合であった。



MEMORIAL SNAP



丸井博実 #10

川邊裕大 #3



古谷将太 #8

MEMORIAL SNAP



川端大介 #1

長拓矢 #2



古川淳也 #9

MEMORIAL SNAP



松井龍一 #15

東原成勲 #26



水田大成 #42

MEMORIAL SNAP



飯塚紅音



同志社大学体育会軟式野球部規約

第1章 総 則

第1条(名 称)

本部は同志社大学体育会軟式野球部と称する。

第2条(目 的)

本部は同志社大学体育会の一員としての自覚と誇りを持ち、体育会、連盟および会員相互の親善・交流を通じて、スポーツマンとして健全なる人格を形成し、心身ともに向上することを目的とする。

第2章 組 織

第3条(組 織)

本部は第1章第2条の主旨を積極的に賛同する学生によって組織される。また、運営にあたり、下記の機関を設ける。

- 1、総会
- 2、幹部会
- 3、役員会

第3章 部 員

第4条(資 格)

本部員たる資格は同志社大学或いは同志社女子大学の学生で所定の部費を納入し、本部の主旨に賛同する者のみに与えられる。尚、硬式野球部、準硬式野球部並びにサークル、外部野球団体に所属する者には資格を与えない。

第5条(義 務)

第1項 本部員は本部の向上発展に寄与し、所定の部費を完納する義務を負う。

第2項 本部員は総会および諸行事に積極的に参加、出席する義務を負う。

第6条(入 部)

入部希望者は、入部届の提出を以て正式入部とする。中途入部希望者は、監督と幹部会の承認を得て入部可能とする。また中途入部者は、入部届の提出月より部費を納入する義務が発生する。

第7条(長期休部)

長期休部は、病気その他の事情により、幹部会がその理由を正当とみなし、休部届を提出した場合において承認する。尚、長期休部中は部費の納入義務を負わない。

第8条(除 籍)

本部員において、次の各項に該当する者は、幹部会において審査し、退部を命ずることができる。

第1項 無届長期休部したる者。

第2項 所定期間によって無届で部費を納入せざる者

第3項 本部規約に違反し、本部の品位を乱したる物

第9条(再入部)

退部を命ぜられた者が自ら反省し、自らの人格と品位を完全に回復し、その信用性が認められた者にのみ、役員会で審査し、これを認めることができる。

第10条(自主退部)

何らかの理由で、自主退部を希望する者は、退部届の提出を以て退部とみなす。また、退部届の提出月までは部費を納入しなければならない。

第4章 役員

第11条(定款)

本部は次の役職を置く。

主 将 1名

副 将 1名以上

主 務 1名

会 計 1名

連 盟 1名

渉 外 1名

合 宿 1名

ホームページ 1名

新球友 1名(兼務可)

第12条(任期)

役員の任期は原則1年とし、前幹部・前役員会からの指名もしくは幹部会・役員会の話し合いで各職を決定する。

第13条(体育会本部委員)

同志社大学体育会本部からの要請があった場合、臨時職として、体育会本部委員を選出する・任期は年数に限らず、最終学年までとする。

第5章 役員の任務

第14条(主 将)

主将は、本部を代表し、本部に関する全ての事項を責任もって遂行する。

第15条(副 将)

副将は、全面的に主将を補佐し、主将不在中は役務を代理遂行する。

第16条(主 務)

主務は、諸行事の運営、OBとの連絡、スポーツ支援課・体育会本部・他クラブ等との接触、各役職の補佐、及び決定事項を承認する。

第17条(会 計)

会計は、本部の金銭出納の管理に関する全てを責任もって遂行する。

第18条(連 盟)

連盟は、関西六大学学生軟式野球連盟に関する全ての事務を行い、総会に出席し、その決議を全部員に報告する。

第19条(渉 外)

渉外は、練習グラウンドの確保を遂行する。

第20条(合 宿)

合宿は、合宿や遠征に関する交渉を遂行する。

第21条(ホームページ)

ホームページは、本部のホームページの管理を遂行する。

第22条(新 球 友)

新球友は、「新球友」製作に関する全ての事務を行う。

第6章 総 会

第23条(権 限)

総会は最高意思決定機関であり、規約の改正、会計報告の承認、その他本部全般に関わる重要事項を決定する。その際、原則的に全部員の出席を必要とする。

第24条(招 集)

総会は定例総会として年2回、春季・秋季シーズン終了時に開催する。但し、部員または幹部会の要望がある場合は、臨時総会を開催できる。

第7章 幹 部 会

第25条(権 限)

幹部会は、本部の執行機関であり、責任をもって本部の運営にあたる。

第26条(構 成)

幹部会は、主将、副将、主務、会計、連盟で構成される。

第8章 役 員 会

第27条(役 員 会)

役員会は、本部の活動を円滑に行う上で、役員が必要としたとき召集される。

第 28 条(構 成)

役員会は、主将、副将、主務、会計、連盟、渉外、合宿、ホームページ、新球友で構成される。
(体育会本部委員が存在するときは、それも含む)

第 9 章 部 費

第 29 条(納 入)

部費は月納とする。選手は月額 2,000 円、マネージャーは月額 1,000 円とする。また納入期間は、2 月から 11 月までの 10 か月間とする。但し、1 年次生の新入部員は 6 月から納入開始とし、4 年次生は 5 か月分を納入することとする。

第 30 条(金額の改定・追加)

金額の改定追加は、全部員の承認を得なければならない。

第 10 章 部長・監督・コーチ

第 31 条(権 限)

本部は、部長・監督・コーチを置き、本部の学生を中心とする活動に対して、適切な助言を与える。

第 32 条(部 長)

部長は、同志社大学教授より、選出、依頼し大学長からの委嘱により就任する。尚、教授不在の場合、体育会の承認があれば、その限りではない。(1 名)

第 33 条(監 督)

監督は、同志社大学体育会軟式野球部 OB 会員より選出し、大学長からの委嘱により就任する。(1 名)

第 34 条(コ ー チ)

コーチは、同志社大学体育会軟式野球部 OB 会員より選出し、大学長からの委嘱により就任する。(複数名可)

第 11 章 規約の改正

第 35 条(規約の改正)

本部の規約の改正は、幹部会において検討し、総会において出席者の 3 分の 2 以上の賛同を得なければならない。

第 12 章 付 則

第 36 条(施 行)

本規約は、平成 28 年 7 月 30 日よりこれを施行する。

公式大会登録に関する規定

第一章 公式大会の種類

第1条 本連盟の主催する下記の大会を公式大会とする。

1. 春、秋期リーグ戦
2. 新人戦
3. その他本連盟の定めた大会

第二章 公式大会出場資格

第2条 出場するにあたっては、本連盟規約に定める会員でなければ出場できない。なお、選手登録は、リーグ戦開始一週間前とする。

第三章 規律違反チーム又は選手の処置

第3条 公式大会出場チーム又は選手が下記各号に該当するときは連盟委員の合議により相当の処置を行う。但し、ここの選手の違反はチームの責任とする。

1. 不正登録チームの出場
 - イ 試合中発見された場合は相手方に勝利を与える。
 - ロ 試合終了後に発見された場合も相手方に勝利を与える。
 - ハ 優勝決定戦終了後に発見された場合は準優勝者を優勝者とする。

2. 軟式野球規則に対する違反

軟式野球規則に従い審判員のくだしたいかなる判定に対しても服従しないもの。

3. 大会秩序を乱し、その進行を妨げる行為

軟式野球の正しい発達を阻害するような言動を行い、大会の進行を妨げる行為をしたもの。但しその行為をしたものがそのチーム又は選手の関係者であってもこの規定は準用する。

4. 放棄試合

放棄試合をした場合は相手方に勝利を与える。

第四章 出場人員

第4条 各学校は主将を含めた競技者によって編成し、主将は10番を付けこれ以外の選手の抗議は一切認めない。

第五章 服装

第5条 選手は必ず同一のユニフォームを着用すること。これに反した者は出場できない。又ズックの使用も禁ずる。負傷等によりやむを得ず使用する場合は主審の許可を得ること。

第6条 各選手は試合に臨むにあてってすべて学生服及びグラウンドコートを着用の上球場に集合すること。

尚連盟会議及び納会などの連盟行事のある際も上記のと通りの服装を持って集合することを厳守すること。

第六章 リーグ戦

第7条 順位は各校2回総当たりの勝ち点制によって決する。(1勝…勝点2、1分…勝点 1、1敗…0) 勝ち点同数の場合は、1位、2位だけで決定戦を行う。決定戦は1試合のみ行う。2位以下同数の場合は当事者間の対戦成績により決定する。

第8条 試合は9回戦とする。

第9条 日没及び降雨コールド試合は5回終了後とする。

第10条 本連盟ではコリジョンルールを適用する。

第11条 全試合終了後記録の優れていた者に対して下記の賞を与える。

最高殊勲選手賞 最優秀選手賞 最優秀新人賞(新人戦)

首位打者(規定打席数25) 打点王 盗塁王

最優秀防御率賞(規定投球回数36) ベストナイン

第七章 新人戦

第12条 新人戦は各校によるトーナメント戦によって優勝を決する。

第13条 試合は9回戦とする。

第14条 新人戦は年1回行うものとする。

第八章 付記

第15条 本連盟により開催される各試合は審判に絶大なる権限をあたえるものとする。

第16条 グランド内に於いては一切の暴力行為を禁ずる。これに反した場合は厳重の処罰をあたえる。

第17条 捕手は原則として、事故防止のため、レガース、マスクの着用を義務づける。

球友会各位

秋冷の喉、先輩諸兄におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。OBOGの皆様にはOB会費など多大なる経済的ご支援を賜り、部員一同感謝しております。

昨年は新型コロナウイルスの影響により、十分に練習することができずなんとも心苦しいシーズンとなりました。一時は練習すら出来ない状況にすら陥りましたが、そんな中なんとか秋季リーグを迎えることができました。秋季リーグで奮闘した結果、西日本代替大会で石川県立大学と戦うことができました。その結果、見事ゴールド勝ちすることができ、有終の美を飾ることができました。私自身、新型コロナウイルスの蔓延による影響がこんなにも大きいものとは思っていませんでした。不本意な一年になってしまいましたが、普段の練習の態度や、プレーや言動で後輩を引っ張る姿など、先輩としてチームのために自分たちの役割を全うしてくださいました。改めて感謝しております。

先輩達の勇姿を目にした私たちでしたが、春季リーグ・秋季リーグ共に満足いく結果が残せず、全国大会へ行くことはできませんでした。先輩方の無念を晴らすべく挑んだ今シーズンでしたが、力及ばずで申し訳ございません。結果は決して良いとは言えませんが、チームとしての動きは非常に良いものであったと自負しております。

来年は、有望な下級生が数多くいるので、全国制覇に向けて日々切磋琢磨して欲しいものであります。私たちもサポートできることがあれば何でもするつもりではございますので、共に全国制覇に向けて頑張ってくださいよう。

また、私達、部員一同が野球に打ち込めていたのも、先輩諸兄の多大なる支援のおかげであります。部員一同感謝申し上げます。ご支援に報えるよう、後輩たちには日々の練習に精進し、最高の結果を目指してもらいたい所存でございます。

今後も部員一同、体育会軟式野球部のさらなる発展のため、なお一層の努力を重ねてまいります。その中で、先輩諸兄のご協力を頂くこともあるかと存じます。何卒私たちの考え方にご理解、ご協力をお願いいたしますとともに、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2020年度球友会会計報告

(2020年4月1日～2021年3月31日)

単位:円

収 入		支 出	
OB会費(74名)	444,000	通信費、事務費	34,094
特別寄付(22名)	112,820	新球友制作費	112,200
「歩み」購入代金	108,000	秋季総会・懇親会	28,435
受取利息	10	学生支援	0
		監督、コーチ支援	0
		体育会、ユニオン、校友会	41,820
		手数料	1,210
小 計	664,830	小 計	217,759
前期繰越金	970,114	次期繰越金	1,417,185
合 計	1,634,944	合 計	1,634,944

単年度収支	447,071
-------	---------

会長 田村 好司 印

会計 岩佐 拓己 印

提出された帳簿及び関係書類について監査した結果、
その内容が正確且つ適正であることを認めます。

2021年7月11日 会計監事 木下 幸典 印

会計監事 柴田 嘉宏 印

2020年度 特別寄付納入者

卒 年	氏 名	卒 年	氏 名
S39	藪内 善次	S59	坂下 雅弘
S40	大井 聡一	S59	津阪 敏夫
S43	廣田 憲司	S61	田中 豊
S43	安田 一夫	S61	永井 靖典
S47	倉橋 公生	S62	坂本 忠司
S53	高室 和彦	S62	砂子 達矢
S53	田村 好司	H7	藤本 誠一
S56	大倉 広継/佐代子	H9	小島 武士
S56	小林 宏行	H10	古谷 将彦
S56	古居 真	H10	本田 弦
S58	平山 正則	H29	大友 健裕

(敬称略)

(22名)

2020年度 球友会会費納入者

(敬称略)

卒 年	氏 名	卒 年	氏 名	卒 年	氏 名
S39	藪内 善次	S59	宮田 俊明	H15	小出(重永) 真理子
S40	大井 聡一	S60	今矢 邦彦	H15	鈴木 勝也
S42	石本 征範	S60	小西 敏之	H15	豊田 幸平
S42	松永 正敏	S60	時岡 佳幸	H15	柳田 一匡
S43	奥村 隆夫	S61	倉貫 博巳	H15	山本 和広
S43	廣田 憲司	S61	田中 豊	H15	吉本 貴則
S43	増田 浩三	S61	塚田 武文	H16	花岡 孝圭
S43	安田 一夫	S61	永井 靖典	H16	松永 啓示
S46	大野 正宣	S62	坂本 忠司	H17	濱本 博行/由希子
S46	塚本 幸雄	S62	砂子 達矢	H18	白坂 浩明
S47	倉橋 公生	S63	柴田 嘉宏	H18	藤森 稔人
S48	上原 隆司	S63	森川 潔	H19	柳本 寛之
S49	上田 照雄	H1	森田 圭祐	H21	北村 直義
S51	木下 幸典	H2	安達 謙一	H21	牧原 光章
S53	高室 和彦	H6	山田 章生	H22	植松 尊之
S53	田村 好司	H7	藤本 誠一	H22	深澤 孝典
S54	渋谷 武	H9	小島 武士	H23	三本木 秀樹
S56	新井 典幸	H9	長谷川 利通	H27	神所 佑希
S56	大倉 広継/佐代子	H10	古谷 将彦	H29	大友 健裕
S56	小林 宏行	H10	本田 弦	H29	御園 友貴
S56	手塚 整廣	H11	福島 圭吾	H30	藪下 匠
S56	古居 真	H12	川上 晋	H31	小野 結衣
S58	平山 正則	H12	前田(柳原) 由紀子	H31	吉岡 紳太郎
S59	坂下 雅弘	H14	岩佐 拓己	H31	与那覇 巧
S59	津阪 敏夫	H15	塩田 耕一		

(74名)

同志社大学体育会軟式野球部球友会会則

2017. 11. 25 改定、2018. 4. 1 施行

第1章 総則

- 第1条 本会は、同志社大学体育会軟式野球部OB OG会とし、「球友会」と称する。
- 第2条 本会は、OB OG相互間及びOB OGと現役学生部員との親睦を図り、同部及び同会発展の推進に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会は、同志社大学体育会軟式野球部とその起源となる同好会に所属していた者をもって組織し、「球友会会員」と称する。

第2章 事業

本会は、第1章第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 同志社大学軟式野球部に対する後援
2. 総会、懇親会の開催
3. 同志社大学に対する後援
4. その他、目的達成に必要な事業

第3章 役員

第1条 本会は、次の役員を置く。

1. 会長 1名
2. 副会長 1名以上

第2条 役員の任務は、次の通りとする。

1. 会長：会の代表として、会の運営に責任を持つ。また、総会においては議長を務める。
2. 副会長：会長を補佐し、会の運営にあたる。また、会長がその任務を務めることができないときは、その代わりを務める。

第3条 役員の選出は互選とし、総会で承認を得なければならない。

第4条 役員の任期は2ヶ年とし、再選を認める。

第5条 役員が何らかの事情により、任期の途中で交代せざるを得ない場合は、役員会に一任する。（第8章の条項に従う）

第4章 監査役

第1条 本会は、監査役を1名以上置く。

第2条 監査役は本会の会計監査を行い、その結果を総会で報告する。また、会則が適正に運用されていることも監査し、必要に応じてその結果も報告する。

第3条 監査役の選出は互選とし、総会で承認を得なければならない。

第4条 任期は2ヶ年とし、再選を認める。

第5章 球友会事務局

第1条 本会は、「事務局」を置き、当会の運営全般と学生との調整役を務める。

第2条 事務局には、会長の指名により、球友会会員の中から事務局長1名と事務局員数名を置く。

第3条 事務局長は、会長の指示により、事務局業務全般を指揮し、その責任を負う。また、その業務内容については、必要な事項があれば適宜総会等で報告することとする。

第4条 事務局員は、事務局長の指示により、本会の総務と会計業務を行う。

第5条 会計担当は、総会で球友会に関する収支や会費等の使途を報告しなければならない。

第6条 事務局長は、総務又は会計担当業務を兼務することができる。

第7条 事務局長と事務局員の任期は2ヶ年とし、再任することもできる。

第6章 その他の役職

第1条 本会には第3、4章に定めた役職以外に以下の役職を定める。

1. 顧問 必要に応じて設定
2. 幹事 各年代1名

第2条 顧問への就任、任務等は以下の通りとする。

1. 本会の運営等について球友会会員のほか、特に必要と認められる者が就任することができる。
2. 就任には総会の承認を必要とする。
3. 本会の運営等について助言等を行う。
4. 任期は2ヶ年とし、再任することもできる。

第3条 幹事への就任、任務等は以下の通りとする。

1. 各卒業年度生から1名選出し、その選出には各卒業年度生に一任する。
2. 任期は定めない。しかし、交代するときは必ず事務局に報告しなければならない。
3. 幹事は、球友会会員間の連絡の中心を務め、円滑な本会の運営に努めなければならない。
4. 4回生は卒業する年度末までに事務局に届け出なければならない。
5. 会長が必要と認めたときは、幹事会を開催することができ、積極的な参加が求められる場合がある。

第7章 総会

第1条 総会は年2回、現役学生の春季、秋季リーグ終了後に開催する。

第2条 会長が必要と認めたときは、第1条の他に臨時に開催することができる。

第3条 総会は次のことを報告、審議決定する。

1. 事業報告（会計報告）
2. 重要案件の決定
3. 役員の選出
4. 会員の入会、退会
5. 会則の改廃および追加
6. 軟式野球部の活動報告
7. その他必要と認められる案件

第4条 総会での決定事項には、その球友会出席者の過半数を必要とする。

第5条 総会での決定が時間上間に合わない場合は、役員会に一任し、後日総会で報告しなければならない。

第6条 総会には現役学生も参加し、球友会会員と相互の親睦を図ることとする。

第8章 役員会

第1条 役員会は、本会役員で構成し、本会の執行機関として責任もってその運営にあたる。

第2条 役員会は、第7章第3条の項目以外の審議事項及び同章第6条の状況において、決定権を有する。

第3条 役員会での決定は、全会一致とする。

第4条 何らかの事情により、役員会がその機能を果たせない場合は、その機能が回復するまでの間、監査役と事務局が、その代行を務めることとする。

第9章 会費

第1条 球友会の会費は、球友会会員1名につき、年間6,000円とする。

第2条 第1条以外にも臨時に特別寄付を徴収することがある。

第3条 会費は、以下の項目に関することに使用する。

1. 軟式野球部の活動支援
2. 球友会の公式行事及びそれに類するもの
3. 第10章第1条及び第2条の事項
4. その他球友会活動に関すること

第10章 その他

第1条 球友会会員による同志社ユニオンや大学、諸連盟主催の公式行事や会議等への出席について、主要駅間の交通費に関しては役員会でその内容を検討のうえ、球友会より支援する。なお、宿泊費その他関連する費用については、原則適用外とする。

第2条 球友会会員死亡時は、役員会で協議の上、球友会より相応の対応を行う。詳細は以下の通りとする。

1. 原則対象は、本会及び軟式野球部の役職に就いている者とする。
2. 上記の一親等にあたる親族（配偶者・子）については、役員会の判断とする。
3. 上記1以外の球友会会員についても、役員会の判断とする。

以 上

編集後記

会報「新球友」第四一号発刊に際し、ご多忙にも関わらず、ご寄稿賜りました先輩諸兄・四回生の皆様、立命館大学の井上様、部長の奥田以在教授、球友会会長の田村好司様、監督の手塚整廣様、コーチの塚本幸雄様、事務局の藤森稔人様をはじめ関係者各位の皆様、そして原稿集めや原稿整理に協力していただいた部員・マネージャー諸氏に心より厚く御礼申し上げます。

私自身、このような重要な冊子を作成するのにデータ編集の経験が一切なく不安でしたが、前任の四回生古谷さんのお力添えのおかげで無事に第四一号「新球友」の発行が叶いました。本当にありがとうございます。また、編集にあたる不手際により先輩諸兄にご迷惑ご無礼を多々おかけしましたが、深くお詫び申し上げます。何かと至らない点があるかと思いますが、この会報「新球友」を通して、軟式野球部員の活動を身近に感じていただければ嬉しく思います。

今後の発刊に際しましても「新球友」が永久に続き、皆様のご交流の役割に立つていくことを心より願っております。

「新球友」四一号

二〇二一年十一月発刊

発行者 同志社大学体育会軟式野球部

編集者 久保田 開

片桐 光之典

印刷所 株式会社 春日 京都支店

TEL (075) 361・6688

FAX (075) 361・7766